横浜市総合保健医療財団通信

# ホット ほっと

Vol.40

特集　被災したらどうするか？ 何ができるか、地域の中で考えよう

ご自由にお持ちください

## 横浜市総合保健医療財団の防災備蓄について



## 横浜市総合保健医療財団の防災備蓄について

横浜市総合保健医療財団では、災害時に備えた防災備蓄の充実に継続して取り組んでいます。昨年度は備蓄品全体の見直しを行い、特に食料について改善を進めました。１週間分の献立を想定して計画的に組み合わせられるようにエ夫しつつ、手を加えずに簡便に提供でき、栄養面や食事の多様性にも配慮した内容としました。これにより、災害発生時にも利用者や職員にとって安心できる食事環境を提供できる体制が整いました。今後も保存期限の到来や使用状況を踏まえながら定期的に見直しを行い、常に実用性の高い防災体制を維持していきます。






手を加えず(温めたり、食器を使わず)に、そのまま食べれるものを追加しました！

特集　被災したらどうするか？ 何ができるか、地域の中で考えよう

# 港北区地域自立支援協議会「地域で暮らす部会」の取り組み

災害はいつ起きるかわかりません。しかし、地域でどのような防災対策が進められているのか、災害時にどのように行動すべきかについては、支援に携わる人や機関の間でも十分に共有されていないのが現状です。

そこで港北区地域自立支援協議会では、昨年 11 月 18 日に「地域で暮らす部会」として初めての防災研修を、当センター講堂で開催しました。自立支援協議会とは、障害のある人が地域で安心して暮らしていけるよう、福祉・医療・行政などの関係機関が連携して話し合う場のことです。

研修では、港北区防災担当者から地域の防災体制について説明を受け、被災地支援に携わる講師から実際の活動について学びました。参加者からは「在宅避難者の災害関連死が多いことを初めて知り衝撃を受けた」「福祉避難所は直接行くのではなく、まず学校などの避難所を通して利用することを理解した」などの声が寄せられました。

大規模災害時には、被害状況の把握や情報伝達が難しく、不確かな情報が広がることもあります。そのような中で、地域で支援を行う私たちが利用者の安全と生活を守るためには、防災体制を正しく理解し、被災地の実情から学び、日頃から備えることが大切です。今回の研修をきっかけに、地域で防災を考え、情報や知恵を共有する機会を今後も積極的に作っていきたいと考えています。

今年度の防災研修は、11 月 14 日に同センター講堂で実施予定です。

**【知っていますか？『福祉避難所』】**

- 大規模災害によって甚大な被害が発生し、自宅で生活できなくなってしまった場合、市内の小・中学校などの地域防災拠点で避難生活を送ることになります。
- 高齢者、障害児・者、妊産婦、乳幼児などの要援護者のうち、体育館などでの避難生活に支障がある方には、各地域防災拠点で要援護者向けのスペースを確保することになっています。
- それでも、地域防災拠点での避難生活が難しいと保健師などに判断された方を受け入れるための二次的な避難所が「福祉避難所」です。




本誌に掲載されている内容の無断転載・転用及び複製等の行為はご遠慮ください。

お問い合わせはこちらから
横浜市総合保健医療財団
**横浜市総合保健医療センター　総合相談室**
月曜日 ～ 金曜日　8：45 ～ 17：15
（祝日・年末年始を除く）
TEL：045（475）0103

横浜市総合保健医療センター
ホームページ
https://yccc.jp
ホームページの
「お問い合わせ」画面から
問い合わせいただけます